

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	A-162	15-118 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Personality disorder in a probation cohort: Demographic, substance misuse and forensic characteristics.</p> <p>保護観察下の犯罪者コホートにおけるパーソナリティー障害：人口統計、薬物乱用および犯罪的特徴</p>		
執筆者		
Pluck G, Brooker C, Blizard R, Moran P.		
掲載誌		
Crim Behav Ment Health. 2015 Dec;25(5):403-15. doi: 10.1002/cbm.1938.		
キーワード		PMID
パーソナリティー障害、保護観察処分、薬物乱用		25234316
要 旨		
<p>目的： 保護観察下におかれる犯罪者のパーソナリティー障害は管理上、重要な意味を有すると考えられる。しかしながら犯罪者集団におけるパーソナリティー障害についての情報は欠如している。本研究では、犯罪者において、パーソナリティー障害の有無による人口統計、薬物乱用や犯罪的特徴を明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法： 173 人の保護観察下におかれている犯罪者を対象とし、SAPAS (the Standardised Assesment of Personality Abbreviated Scale)を用い、パーソナリティー障害についての調査を行い、アルコールや薬物乱用および統計学的、犯罪的情報もともに記録した。</p> <p>結果： 対象者のほぼ半数 (82 人、47%)にパーソナリティー障害の可能性があった。パーソナリティー障害のある犯罪者はパーソナリティー障害のないものと比して、より若年で非雇用状態であり、離婚者は少なく、強盗による逮捕、アルコールや違法薬物乱用者が多かった。多変量解析ではアルコールと薬物乱用が独立してパーソナリティー障害の形成に寄与しており、薬物乱用で有意であった。</p> <p>結論： 保護観察下にある犯罪者群において、パーソナリティー障害のあるものは、パーソナリティー障害のないものに比較して、過度のアルコール摂取や違法薬物の乱用といった問題を有することが示された。</p>		